

令和元年度第 1 回 南丹市地域創生会議 会議録

■日 時：令和元年 8 月 20 日（火）午前 9 時 30 分～正午

■場 所：南丹市役所本庁 1 号庁舎 3 階防災会議室

■出席者

委 員：今井委員、窪田委員、坂本委員、高御堂委員、谷口委員、野々口委員、藤野委員、藤村委員、
俣野委員、南本委員 ※欠席なし

事務局：市長公室 船越公室長

市長公室企画財政課 國府課長、片山企画係長、富部企画係主査

■傍 聴：3 名

1. 開会（事務局）

2. 委嘱状交付（西村市長）

3. あいさつ（西村市長）

開会にあたり一言ご挨拶申し上げたい。

世の中の役職や取組は、忙しい人に更に忙しい内容が集中する傾向にある。委員各位、大変忙しい方ばかりだが更に忙しくさせてしまうことは、誠に申し訳なく思う。

しかしこの南丹市地域創生会議は、南丹市のこれからの方向を決めて行く非常に大切な審議会である。皆様には本当にお忙しい中、委員就任を快諾いただいたが、それぞれ大変豊富な経験や活動をされているので、楽しみにしているところ。任期の期間お世話になるが、宜しく願い申し上げたい。

「地方創生」と言うと、平成 26 年、第 2 次安倍内閣発足時にこれからの国造りの大切な柱として始まった。その中では、例えば間近に迫っている文化庁の京都移転のように、国の組織を地方に分散していこうという意欲的な取組もある。しかしそれ以前、いわゆるリーマンショック前、国は首都を移転すると言っていた。東京から離して、もうひとつの新しい首都を作って複眼的な日本の国土づくりをしていくというような方針を掲げたが、残念ながら実現には至らなかった。今後、本当に日本の国がもっと本格的に省庁を地方に分散していくかと言うと、今の状況ではなかなか難しいのではないかと思う。

そんな中で「地方創生」という制度を設けて、あらゆる分野で取り組みを進めていく、その 1 つとして地方創生交付金事業等に取り組んでいこうということで、その柱になるのが、それぞれのまちで策定をして方向付けをしていく、いわ

ゆる「南丹市地域創生戦略」のことである。それを作っていただくのが皆様方、地域創生会議である。第1期の経験があり、そして第1期に審議を牽引していただいた窪田委員が今回も入っていただいているので、第1期の反省等に基づいて第2期の計画を立てていきたいと思っている。

地方創生の取組は、既存事業を取り込みパワーアップしたような内容もあれば、新たに取組んだ内容もある。第2期になると意欲的に今までにないものを考えていけたら、と思っている。事務局から一定の案的なものを今後出していくとは思いますが、南丹市を知り尽くしていただいている各委員から思い切った話も出していただけたらと思う。

更に私自身は、東京一極集中を是正する方法として、例えば土地規制法制を、現状非常に強い縛りから緩和するだけで、市街化調整区域に人が移って来れると考える。それを各市町村の努力で体制や制度も作り実現するには、国の方針ではあるが、思い切って国が新たな土地の利用規制を緩和し、地方の田舎に人が住めるような条件作りをしていくべきであるという事までも、私は訴えていきたいと思っている。

地方創生交付金事業に拘らず、地方創生を阻んでいる要素についても、皆様方が日頃不自由に考えていること等に触れてご意見いただけたらと考えている。いずれにしても限られた回数しか開催できないが、今から決めさせていただく座長を中心に少しでも力強い、元気で夢のある戦略が出来ることを、誠に勝手ながらお願いをさせていただき、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

4. 座長指名（西村市長）

第1期を上手く牽引いただいた窪田委員引き続きに座長をお願いしたい。

◆座長挨拶

第2期に向けて既に多くの地域で取組が始まっている。府内でもいくつかの市町村で関わりを持たせていただいております。南丹でも引き続き関われることは有り難く思う。

地方創生というものに5年間前向きに取り組んでいる地域もあれば、斜めに捉えているような地域もあるように思う。何十年も先の人口を見て抜本的に地域を変えと言ってもイメージが湧かない、どうしたらいいのかわからないという思いを持たれる場合もあると思う。交付金がもらえたらいい、という発言も聞こえる。私もそういう気持ちになることもある。

私は評価の専門家である。KPIを設定し、それを達成する有効な手段を考え、達成できたかどうか見るのが役目だが、本市も含めなかなか理想どおりの制度は作れなくて悩ましかった。

夏休みの学生のように、受験勉強や宿題にやらされ感があるとやる気を失う面がある。地域創生もやらなければいけないこと。未来の南丹市がどうなるかは、これからつくっていく人口ビジョンや基本戦略で左右される面があるが、他人に言われてやらされるという形だと元気な計画はできない。西村市長の挨拶でも激励いただいたとおり、各委員の知恵を借りて前向きに諮問に答える、自主的に戦略をつくっていくという気持ちで取り組むことで良い戦略ができるのではないかと思います。

国の方でも様々な事例集をつくっている。成果を上げている事例は地域自身が愛を持って我がことと思って頑張っているもの。南丹市では美山の道の駅の事例が挙げられている。

そういう事例も参考に次の戦略をつくる、アイデアを出す、みなさんの様々なご経験から地域創生の課題を出す、ということに限られた回数の中でやっていきたい。私としては皆さんから積極的に意見を出していただけるように努めたい。

となると、限られた回数で多様な委員からお寄せいただいた意見を全部その場でお答えすることはできないと思うが、以後の会議や会議の場以外でも事務局に受け止めて考えていただけると思うので、忌憚なくご意見をいただきたい。

◆市長より(退席挨拶)

これまで大変多くの地域創生に係る事業に取り組んできました。これからは欲張って手を上げるのではなく、何か 1 つ、背丈に合ったものに取り組みたい。

なかなか理想どおりにはいかないが、少子高齢化の進んだエリアの方々の目標になるものになればと願う。宜しくお願ひしたい。

5. 議事

委員：

ではここからは私の方で進行させていただく。今日は長時間になり恐縮だが、宜しくお願ひする。

本日は議事にあるとおり、まず次期戦略の策定方針を説明いただき、これまで取り組んできた第 1 期の 4 年間の総括し、第 2 期の戦略の骨子説明をいただき、といういきなり重要なものをハイペースでやっていくことになるが、宜しくお願ひする。

(事務局から説明)

- 1. 策定基本方針についての説明【資料1】
- 2. 事業評価についての説明【資料2・3】(P.1～2)

委員：

(ふるさと農業創生支援事業、創業支援事業、実践型人材育成事業の説明と評価の事務局案を踏まえ)事務局案の○(どちらかといえば有効であった)、◎(有効であった)の理由を教えてください。

事務局：

- ・ふるさと農業創生支援事業：従来から取り組んでいる事業で、KPI も順調に推移しているため
- ・創業支援事業：◎の評価を受けた前年度に近い KPI 実績があるため
- ・実践型人材育成事業：ふるさと農業創生支援事業と同様であると説明。

委員：

委員の聞きたい理由はそういう意味では無いように思うので、後程ご意見をいただくこととしたい。

KPI 実績については単年設定と累計設定が混じっているのでは、事務局にはそこも明確にして説明いただきたい。

(事務局から説明)

- 2. 事業評価についての説明【資料2・3】の続き(P.3～4)

委員：

あとで意見をいただく上での論点として、そもそもこの事業評価を何故やっているか、どのようにやっているかを説明しておきたい。

政策の評価には3つの視点がある。必要性・有効性(目的と手段の関係)・効率性(費用対効果)があるが、当会議の事業評価については、ほぼ有効性にのみ着目している。有効性も本来は現場で調査をしなければ分からない面が多いが、そこまではできないので、代わりに KPI という指標を設けて評価するという手法を取っている。しかし、自分も関わってきたことではあるが、様々な取組をしているのに、KPI の設定が大雑把かつ少な過ぎて、事業実績として掴みきれていないことが出てきている。

なので、第 2 期については最終目標の KPI はこれでいいとしても、途中過程に KPI を細かく設定した方がよいように思う。第 1 期では時間もなくてできなかったが。

それでも KPI だけでは掴めないことが多々あるので、市役所の各取組担当課から事業実施の実感を説明していただいているが、その評価だけでは甘くなるので、各委員の経験・見聞の中で掴んでいる実態を基に意見として出していただけると有り難い。

つまり、KPI と市役所からの説明と各委員の意見を総合して有効性の評価をする、ということである。国の交付金ももらって実施済の事業ではあるが、積極的に意見をいただきたい。

(事務局から説明)

■2. 事業評価についての説明【資料2・3】の続き(P.5～)

委員：

事業評価としては、交付金をもらって実施しているので、あまり悪い評価を国に報告出来ないという大人の事情があるのは理解する。しかし、目標値の設定の仕方として、例えば実践型人材育成事業で女性起業者数を KPI と設定しているのは、果たして正しいのか。

仮にそれを良しとしても、「平成 30 年度の目標値 5」に対して実績値が「2」であるのに、評価は〇となっていると目標値の意味は何なのかと思わされる。さらに、令和元年度(最終年度)の指標は「延べ 15」であるのに、各年度の KPI を単年度実績値で設定しているのはどうなのか。平成 30 年度目標も本来であれば「延べ」設定しておくべきだったのでは。例えば、指標値が仮に「述べ 15」だとして、初年度に 15 を達成してしまったら、当然のことながらそこから先の年度で単年度目標達成が難しい。しかし「延べ」であれば達成していて、さらに一定の成果を各課の過年度において追加達成するということであれば、評価「〇」でも良いと思う。「単年度 5」と設定していながら「2」しか達成していないのに評価「〇」というのはどうなのか。これはテクニカルな話になるかも知れないが、KPI 設定の仕方に、あるいはそれに対する評価に若干、疑問を感じる。次期計画においてはそのあたりも意識しながら KPI の設定をしてはどうかと思う。

委員：

有り難いご発言である。関連することでご発言があれば伺った上で、事務局にどのような考え方で作っているのか聞いてみたいと思う。

委員：

数年前に受講したが、女性だけでなく男性の受講者もいた。今日の事業報告で KPI が女性起業者数だと聞いて驚いたが、もし女性の起業を目的にしている事業であると言うなら、受講内容が違ったと思う。

委員：

委員が仰った事業はどれか。

委員：

実践型人材育成事業である。

委員：

今のご意見のように、個別事業評価の際は、まさに実際に見てきた話を発言いただくと参考になる。

事務局：

KPIとしてこの年度に何人、という設定は非常に難しいという理解はしている。正直申し上げると、実践型人材育成事業をやって女性の起業者増加へ直接的に影響があるのかという、疑問である。「5」や「10」という女性起業者の増加数を設定した経過は、残念ながら事務局では分からない。当初に今回のような会議をして、検討の結果設定をされたのであろうと考えている。KPIに係る矛盾点は他にも多くあるように思います。事務局でもそう思っているが、適切に事業実績を図るKPIというのは非常に設定が難しいものではないかと考えている。

第2期には施策全体にもう少しKPIを細かく設定して、施策に対しての事業がどのように寄与したかという、事業単位ではなくて、施策単位でKPIを細かく設定していく形の方がいいのではないかと考えている。

よって、今お尋ねいただいた内容について、適切な答えにはなっていないが、次期戦略から改善をしていくこととしたい。

委員：

過去の評価というのを各委員にお願いして取り組んでいる訳であるが、今事務局から説明があった状況では評価はなかなか難しいと思われたのではないだろうか。過去の会議でも、それではできない、という実感もありながらやってきた。少し甘い評価になったかという反省も無くはない。ただ、引き続きこの資料に基づいて、過大評価している、誤っている、のような議論を個別の事業についてやりたいと思っている。

今年度この会議を進めるにあたって、次期戦略においてはしっかりとしたKPIを作ることがとにかく大事。1期策定時は急いで戦略を作らなければならない、という事情から、一度設定したKPIをそのままずっと据え置いてしまった。設定した途中で変えるということもなかなか難しい。是非、各委員には意識していただいて、良いKPIを作りたいと思う。事務局が言っていた、KPIを細かくするのも一案ではある。考え方を紹介しておくと、KPIは民間企業の経営等にも使われるものなので、一般的には指標を設けて達成度をみる、という部分だけが注目されがちだが、成功に向けたストーリーというものを作って、その要所要所に目標を設けて達成状況を確認するためのものである。第1期戦略のKPI設定に欠点があるとしたら、どの事業も同じくゴールとなる指標で計っていて、途中経過の目標が全然ないという点であろうと思う。

なので例えば、基本目標1についても起業者数とか、特定労働者数を指標として最終至るとしても、その中にある「ふるさと農業支援事業」や「創業支援事業」について、女性起業者数等のもう少し細かいレベルの途中目標を設けていくという考え方もあるだろうし、そういうKPIで適切なものを各委員の知恵でいただきたい。事務局が強調していたのは、その目標値をどの程度に設定すればいいのか、5年後どの程度できるのか、どこまでやらないと南丹の創生にならないかが分からなくて困っているということなので、そのあたりも各委員の知恵をいただきたいと思っている。

そういうことなので、本日引き続き個別の事業について、質問や問題提起、実情の紹介等いただければ有り難い。

委員：

資料3の1ページ「ふるさと農業創生支援事業」で、農家民泊をしている。当初は美山を中心にやっていたのだと思う。目標値を15件として、現状どれくらいの数が稼働しているのか、総数でどのくらい件数があつて、例えば美山

以外の地域で稼働されている所があるのか、今後、どういう形でされていくのか。そのあたりが分かれば、例えば民泊をすることによって何かの売り上げになるとか、流動人口が増えるとPRをすればもしかしたら定住につながるとか、そういったことが地域のどのあたりで伸びていくのか、という発展性が出てくるのでは。KPI が民泊開業数だけでなく、現状の稼働数が分かれば良いと思う。

委員：

もし分かれば今答えていただきたいが、難しければ次回に。普通に見れば全市で 15 件とあるが、このうち今稼働している件数について確認願う。

委員：

単純なところなのだが、資料 2 の 5 ページ「観光イベント振興事業」に大野ダムさくら・もみじ祭りとある大野は、和知のことか。

委員：

美山町である。

委員：

資料を今回見た上で次回までに評価を考えておくということだと思うが、どこまで考えてくれば良いか伺いたい。例えば資料 3 の 1 ページの農家レストランや民泊などについての事業であれば、オーガニック農家になりたい人が増えていて、農地の取得方法を探しているという相談を受けた事もあり、先に起業している方が相談を受けることもあると聞いている。実際に農地を新しい人に渡す手段は空き家バンクが担っていて、対応する窓口に相談しなければどうしようもないが。例えば空き家バンク的な仕組みとして農地バンクを作る、相談がきたらどの部署で対応いただけるのかぐらいまで明確にした方がいいという気がする。どこまで意見すれば良いか。

委員：

とりえず時間の許す限りご意見いただきたい。色々なあり方が考えられるが、地方創生戦略自体としては交付金をもらっているもの以外にも取り組むので、事務局としてアイデア自体は是非欲しいところではないかと。その上でこの戦略に紐付けられるものは紐付けるし、そうでない課題で受けとめたいものは受け止める。

この戦略と紐付けた過去の交付金事業として沢山やってきたものは否定しないが、先程市長からも今度は地に足ついた取組を、少数でも良いからやりたいという方針が示された。それを考えるにあたり、各委員から「こんなことが出来るのではないか」「こんなことをやってみたらどうか」という提案は是非欲しいところだと私は理解している。まず会議の場でご意見をいただいてもいいし、思いついた時点で事務局に伝えれば検討いただけると思う。私か事務局に伝えていただけたら受け止め方は考えさせてもらうということでご理解いただきたい。

委員：

これに基づいて今 26 件ある事業を、例えば 10 件程度にしていくのか。

委員：

評価事業はあくまでも交付金受けて実施しているものなので、それ以外に各課でやっていくか、それを戦略に紐付けるか、戦略に関係なくやるのかは今は何とも言えない。

いずれにせよアイデア自体は、地方創生交付金を取る、等と小さく絞らずに、どんどん欲しい。この会議で受け止められるものは受け止めて、繋げるものは繋いでいくというような発想とと思っていただきたい。農地バンクはとても良い

アイデアだと思う。

委員：

他の委員の仰る農地バンクに大賛成である。宇治市槇島町で NPO 法人スモールファーマーズという社会人向けの週末農業学校をやっている方がおられる。実は先日、日吉町の農地所有者を紹介して、そこに卒業生を引き込めないかということ打診させていただいた。地元の議員等も来られた。なぜ連れて行ったのかというと、生徒の 7 割～8 割が有機農法で家庭菜園を経験したい人。残りの 2 割～3 割は農家になりたいという若者なのだが、彼ら卒業生の悩みは畑を貸してもらえない、田んぼを貸してもらえない、売ってもらえない、どこの誰かも分からないので相手にされない、という状況で、大変困っておられるということを知っていたからである。学生が好んで南丹市に来てくれるかは分からないが、その時 NPO の代表と一緒に連れて来ていた方は美山で農業をしたいという中高年の方であった。興味があつて一緒に見せて欲しいということで。そういう形で情報発信したら、過疎化した農地に次々若者が入ってくるのではないのかと私は思っている。

もう 1 点、資料 2 の 4 ページの KPI に「空き家活用件数」があるが、空き家バンクの登録件数はどの程度あるのか。

事務局：

申し訳ないが手元では確認できないので、担当課に確認して次回ご回答させていただきたい。

委員：

八木町で移住・定住者の話を伺っていると、とても苦勞されている。空き家バンクに相談しても全然返事が来ない、知人を通じてやっと移住できた、という方が大半である。5 月に他の委員に協力いただいて「CREATOR DAYS NANTAN」というイベントを実施した。これはクリエイターに集まっていただいて我々の基盤である京都・大阪・滋賀から集客し、ものづくりの工房に足を運んでいただいて交流する、というのが一番の目的であつた。参加されたクリエイターの方々はほとんどが、ものづくり関係の移住者。最近移住された方に「何故南丹市に来られたのか？」と聞いてみると、初めは京都を目指して移住されてきたものの、京都市内はあまりに家賃が高く工房を持つのは難しい状況だったので調べてみると、南丹市が住みやすいと。しかし空き家がない。という話だつた。こういう事情が八木特有なのかは分からないが。

委員：

毎月のように移住相談を受ける。先月も陶芸家が 1 件、家族連れが 2 件相談があつて、空き家バンクを紹介するが、空き家バンクの職員も個別対応で精一杯だと思うので、空き家を持っておられる方に市から直接アプローチしていただけるとありがたい。

委員：

美山町には本当に空き家が多い。しかし、皆貸したがない、親戚の人が管理して渡さないという状況。きれいに整備はされているが。

委員：

それを促進するための福祉の事業が、事業報告にある「空き家流動化対策事業」の中の「空き家思い出保存事業」だと思うが、果たしてこれが本当に空き家を渡すためのきっかけになるのかと言われると疑問である。記念写真は家を渡すと決めてから撮るものなので、この事業がきっかけにはならないと思う。その事業の評価が「◎(有効であつた)」になっているのはなぜかと思う。

委員：

そういう独自情報を根拠に、評価に対する問題提起を果敢に発言いただければ良い。

委員：

「空き家流動化対策事業」の実施状況とKPIの関係がよく分からない。資料3の6ページに「空き家掘り出し事業」
として空き家バンク新規登録9件、新規活用8件となっているが、KPIの「空き家活用件数」は28件となっている。
この28件というのは何の件数か。空き家を新規登録された場合は報奨金支給、その空き家が新規活用された場
合は報奨金を追加となっているので、素直に考えたらこの報奨金を追加した件数が28件あるように読み取れる。

事務局：

空き家バンクを利用して空き家を活用した件数および移住相談の件数をKPIとしており、空き家流動化対策事業
の空き家掘り出し事業を使って新規登録されたのが9件、地域活用が8件という意味である。

委員：

なるほど、空き家バンクに登録されている空き家を使って活用されたのが28件という意味だと理解した。

事務局：

マッチングを経て活用されたという意味である。

委員：

移住相談件数のことだが、この288という数値は実数、延べのどちらか。例えば、1人が288回相談されても288
回になる。これはKPIの設定の仕方として、先程座長が仰った目的・手段で言うならば、移住相談件数はプロセスと
して絶対必要かつ重要な指標ではあるが、本来はそれによって事業目的である移住に繋がった人数をKPIとすべき
だったのでは。ただ、一朝一夕に実績が出るものではないから、この項目に関しては業績評価に留めている、とい
うのも1つの考え方だとは思う。ただ、その意図は明確にしておかなければならない。

委員：

今のようなご意見も、次期戦略案が提示される第3回ぐらいの会議では論点になると思う。委嘱期間の2年間、
戦略策定後に毎年集まって、「このKPIが分からない」と言い続けることにならないようにしたいと思う。

さて、各委員とも非常に関心を持って発言いただけてありがたいのだが、時間が限られているので。今から説明す
る視点でご意見をいただけたらと思う。事務局案の是非は次回以降に議論することになっているので。また、色々な
取組については第2期の戦略においても、現状を基本に付け加えていくという形になっているのと、基本的に事業報
告書に書かれている事業の多くは、継続していくことがイメージされるので。

よって、「このままいいのか」「方向転換した方がいいのではないか」という内容があれば、この機会に事業報告書
を見ていただき、ご意見いただければ参考になる。実際には市の各部局の中でご検討いただくのだと思うが、
「この会議でこういう意見が出ていた」ということも参考にさせていただけると思う。例えば、もっと農業を振興するにはど
うしたらいいのか、農家民泊にこういう取組もすべきだとか、というイメージでもう少しご意見いただけたらありがたく思
う。

まず皮切りに、例えば…ということで私からお尋ねしたい。事業はしていないが、資料の2の7ページを見ていただ
きたい。ここで「大学等の連携事業」というものがあって、急速に増えたという印象を受けた。また、同じページで基本
目標3の施策1のKPIとして「市の審議会等の女性委員割合」に30%と指標設定があり、現状21.8%に留まるの

だが、これについて現状をどう分析するか。こうした方がいい等、もしあればご意見を伺いたいと思う。

委員：

この指標がKPIに設定されているということは、審議会に女性が増えたら、子育ての夢がかなえられるだろうと考えているのか。

委員：

推測するに、本当は女性ももっと意見を言いたい人がいるだろうけれども、それを伺う機会がないから増やして行こう、という考えだと理解している。

委員：

KPIがあるということは、KGIがあるはず。KGIが基本目標1～4に掲げる指標なのか、KPIとどのように関連しているのかが見えにくい。KPIはあくまでもKGIのプロセスでの評価指数であるので、関連性が分からなかった。

委員：

その点について、第2期を作る時には思い切って妥協して一般的にいうKPIとKGIを合体させたもので評価をしようという話になっている。先程、次期戦略のKPIはなるべく細かくきちんと作りたい、私も思い通りにならなくて云々、と言ったのはその部分である。

委員：

所属団体でもKPIを作るのが難しい。

委員：

そうだと思う。先程、他の委員からもそういう主旨の発言をいただいた。設定が難しい分野もあると思うが、なるべくストーリーを作って、プロセスが分かって、最後のKGIに到達するようにしたい。

審議会の女性参加については、委員になれる方に制限があるか、審議会の開催方法が悪いのか、開催時間帯的に無理なのか、色々な理由はあるのだと思う。

委員：

私は今、別の審議会にも1つ出ているが、そこにも女性委員はいる。

委員：

KPI設定が難しいために個々の施策が独立していて、それだけで何か達成できるということは無いと思う。例えば、今の目標で言えば「結婚・妊娠・出産・子育ての夢を叶える支援」というところに、「審議会の女性割合」というKPIが設定されているが、次期戦略では「誰もが活躍できる地域をつくる」と若干変わっている。そうなると、重なってくる。

つまり結局、過去、女性は結婚・出産したら家庭に入る前提だと当然、活躍の場は審議会委員等極めて限られてくる。活躍できる環境を作ろうと思うと、誰もが活躍出来る社会、女性であろうが障害者の方であろうが誰でも活躍出来るようにする。そうすると市に対して意見が言える見識等を持てる。そういう状況を目標とするなら、またがってくる。それをどちらにするかは判断だと思う。そういった観点でKGI・KPIの話にも繋がっていくと思うが、最後は割り切るしかない。「結婚・妊娠・出産・子育ての夢を叶える支援」と「市の審議会の女性委員割合」は結び付かないことはないが、関係性が遠い。もう少し細かくKPIを設定すべきと思う。

委員：

田舎はどこでも男社会である。行政区の区長も全て男性、女性の区長はいない。公民館長等、何にしてもトップは男性である。そういうイメージが強い。

私は色々な取組をしているが、批判される。「外ばかり出て家のこともしないで」と嫌味を言われる。南丹市はやはり男社会である。男女平等社会を切り開いていくのは、なかなか難しい。

委員：

商工会の女性部に所属して広報を担当しているが、女性部員の方に広報の照会をかけても、「主人やお父さんに相談します」と仰られる。自分で事業をされている女性の方も増えているので、あり方を考え直さないといけないと話しているところ。会議の開催時間も難しい。

事業報告で個人給付的事業が多くて交付金対象事業になりづらいという説明があったが、市としてPRするものを作るような取組は、この項目に入ってくるのかなと思う。例えば子育てを頑張りたい人、田舎で子育てしたい人に「自然環境の良い中で暮らせる」「学校給食の自給率が高い」等、都市部とは違うPRの仕方ができると思う。

委員：

国も次期戦略で、これまで活躍の場が与えられていなかった人、女性、高校生の力を借りて地域の発信をしていくことも掲げられており、ケーブルテレビ報道の立場で委員にも来ていただいているところ。そういう事も含めて大事だと思う。

委員：

サテライトオフィスでご意見をいただきたい。

私も昨年夏、学生と共に小学校の跡地を見せていただきに行く中で、きれいなオフィスもあり、こういうのが沢山くればと話しながら回っていた。

この夏は兵庫県の養父市で小学校跡地にサテライトオフィスが来ているのを見に行けたらと思っている。地方創生で各地が競いながら頑張っていることである。ご示唆いただければ。

委員：

当時農水省から出向していた部長に誘われて園部町西本梅小学校を利用したシェアオフィス SOI を見に行ったが、大変すばらしい取組だと思っている。

八木では吉富小学校と新庄小学校など廃校となった学校からインキュベーションを起こそうと素晴らしい取り組みをされている。小学校跡地にコワーキングスペースをつくり、人を集めようとされて相談に来られたので、クラウドファンディングを勧めると後日「市に駄目だと言われた」と言っておられた。クラウドファンディングは全国同時に見られて宣伝効果もあるが、なぜ駄目なのか。吉富小学校跡地の設備関係だが。

事務局：

事実関係を把握していないので、今はお答えできない。

クラウドファンディングは財源確保のため必要な取組だと思うが。

委員：

祇園祭山鉾連合会で運営費を工面するため一昨年くらい前から取り組んでいて、1回目は1,500～1,600万円がすぐ集まっている。今年が700万円弱。配当はちまき、手ぬぐい、扇子等。八木の花火大会も人気があるので、配当は特別席に生ビール付でもいいのでは。農家民宿でもゲストハウスをやりたいという若者が沢山いるので、そうい

う人達は必ずクラウドファンディングを使おうとする。

京都には保存したい京町家がある。門川市長が保存にかかっているが、昔は既存不適格建物・再建築不可という理由で京町家には融資できなかった。その時に、京町家専用ローン「のこそう京町家」「活かそう京町家」など住宅ローンや事業性融資の専門商品を作って初めて融資し始めた。古民家融資でそういう商品を作って欲しいということであれば、そういう商品を作るよう本部に依頼する。クラウドファンディングを活用した素晴らしいコンセプトの事業なら、その初期費用として市が補助金を出すようにしていけば、若者が集まる。

委員：

JR 八木駅舎の建て替えがあるが移築できないので、旧駅舎の姿を保存する取組にクラウドファンディングを活用するところ。記録冊子を第一段階で作ろうとしていて、3D計測して駅舎を復元できるようにしようという話も出ている。思い出のあるものだから支援してくれる。

委員：

続いて販路開拓支援事業について。

地方創生においては地域資源を活かして様々な商品を作り、インターネット等を介し世界に向けて発信した成功事例もあり、失敗事例もある。このあたりの情報・ご意見はあるか。

委員：

私は前職でそのようなことをしていた。

実際、「展示会・見本市の出展」というのはどのような所に出展しているのか。商品・店舗の形態によって誰をターゲットにしているか、その接点はどこがいいのか、出展すべき場所が違ってくる。

目的も出店後、通販で売ろうとしているのか、店舗に来てもらおうとしているのかで違ってくる。出展の中身、「どういふものをどこへ出すか」というところが本当に大事である。中身も考えていただきたい。

委員：

また次回事務局から正確な説明をいただくこととしたい。

販路開拓は、市役所がやらなくても、民間の個人事業者や企業でもやっていることだと思うので、最近の動向や、それに対して市がすべき支援等、情報やアイデアをいただけたらと思う。

委員：

基本目標2だが、先程空き家の件が少し話題になった。関係して移住、シティプロモーションもある。それらについてご意見・アイデアをいただきたい。

ちなみに移住の関係で言うと、南丹市市民提案型まちづくり活動支援交付金事業の大学提案枠で、本日傍聴に来ている院生と一緒に「定住促進関連事業の実用重視評価によるプログラム評価」という事業で集落の教科書の効果測定に取り組んだことがある。

今の段階であれば事務局もアイデアを取り入れやすいが、次回にはある程度形になっているであろうから、だんだん変えにくくなる。なので今のうちに積極的にご意見をいただければ変えやすいと思う。勿論初めての会議なので意見が出しにくいところもあると思うが、もしご意見があればお願いしたい。

委員：

吉富小学校や摩気小学校は地域の特色をそれぞれ考えて取り組んでいるように思う。

シティプロモーションでは、南丹市の名前がなかなか出てこない現状がある。各旧町の資源を上手にプロデュース

してトータルで南丹市がアピールできるようにしたい。

委員：

前職、観光政策課にいて、京都府観光総合戦略の策定に取り組んでいた。

観光振興の観点として持っていたきたいのが、現状観光に関する KPI が観光入込客数になっている、それはそれで必要だが、ただ人が多く来たら良いのではない。観光の行き着く先は移住定住と我々は考えて取り組んでいる。そこまで到達して初めて観光振興が成果だと考え、観光総合戦略を作っている。

シティプロモーションについても、南丹市の知名度を上げるためには、観光で言うと現状美山だけ突出しているの、最初は「あの美山がある南丹」でも良いと思う。知ってもらわないと話にならない。その上で「美山だけでなく他にもある」と気付いてもらえるまで何度も来てもらう。

観光の効果としては、外から来る人のことだけでなく、今住んでいる方の定住＝住み続ける・出て行かないということも大事。外部の目線から住民自身にここは良い場所だと思ってもらう(＝シビックプライド)。地域の活性化につなげていく、そこまでしなければ観光振興を頑張る意味はない。指標は個々に設定していかなければならないが、施策自体は繋がって行くものだという意識で次期計画については検討いただきたい。

委員：

京都府は観光総合戦略で長期ビジョンを持ったものを作っているの、それも意識していただけたらと思う。南丹市はかやぶきの里、和東町はお茶の山、舞鶴市は赤レンガ倉庫というメジャーなところが入口になればと思う。

委員の皆さんは南丹市の観光宣伝を目にすることはしないか。市内にいと意識しないかも知れないが、私は大阪から通勤しているので、途中で京都駅の柱にかやぶきの里が沢山広報されているのを日々目にする。それが大阪駅、京都駅、女性専用車両でやっている。それをターゲットがそれでいいか、個人的には例えば東京や空港、大阪でやる方が効果的であるように感じたが、皆さんは観光宣伝でお気づきの点はないか。

委員：

定住促進が目的なら日本人がターゲットなのだろうが、森の京都が力を入れているのは外国人観光客対策である。

委員：

シティプロモーション・定住も込みで、観光の方は日本人も外国人も来て欲しいということ。

引き続き外向きに発信していくと思うが、どうやっていくべきか教えていただけるか。

委員：

地域おこし協力隊だった頃に集落の教科書を作ったが、色々な地域の協力隊や自治体の方から、自分のところでも作ってみたいとお話をいただいた。そういうところにも積極的に出していけたらいいと思うが、「南丹ブランドにしたい」「あまり外には出たくない」という声を聞いたことがあり、PRのために作ったので、観光宣伝に使っていただきたい。

委員：

皆さんご承知かも知れないが、「集落の教科書」という取組がある。しかし、それをあまり外にPRをしない傾向がある。私からすると、内閣府に載っている色々な取り組み事例の重要先進事例に載ってもいいくらいの取組である。

私ももっとPR すべきと思っているが、そんなに売り出したいくないという印象。不思議である。最近調査に行った石川県七尾市で最近作成しているが、後発のそちらの方が取り上げられて有名になっている。

ざっと見てきたが、安全・安心や働き方の問題や農業の大局的なところで各委員からご示唆いただきたい。

委員：

空き家バンクの紹介実績、何百件という問い合わせがある中で農地情報についてどういう調査をしているのか具体的に出してもらったら、情報共有できると思う。空き家のみか、農地付きを求めているのか、分析しないとつたいない気がする。

農家民宿は、最初は単価が安いからという理由で来た人がいた。それでは次に繋がらないということで、200人ぐらいを目標にして地域で交流してもらうことを考えているので、ターゲットを絞って呼び込みたい。娘が観光農園みたいなことが面白いと思って、収穫体験や庭先でのピザ焼き等滞在時間を延ばすような方法を考えているので、そういう形で農家民宿の受入をしていけば、来た人と地域との繋がりがより深まる。受入側が「こういう人を求めている」とハッキリ言わないと施策が絞れない。農家民宿も南丹市のビジョンの中で具体的に打ち出してもいいのでは。安いだけの住宅・宿泊探しレベルで取り組むのはどうなのかと思う。

委員：

委員から働き方や安全・安心でお話いただきたい。

委員：

今、働く者を取り巻く環境というのは、人員不足という壁にあたっている状況。働き方の改革が行われて、これまでとは違う働き方が求められているので、男性・女性共に働き、子育ても共にしながら、多様化する働き方を数多く作っていかねばならないという時代がきている。

働く者の環境も少子高齢化・人口減少の中で変えていかねばならない。南丹市の地域創生にどのように絡んでくるのかは難しいが、仕事をしながら子育てをする一方で、親の介護も含めて総合的に生活しやすいという魅力を南丹地域の中でアピールできるような施策を打ち出すことで、南丹市に住んで働きながら定住していこうという状況が作り上げられたらと思う。

委員：

外国人の労働者が増えると思う。次期の骨子についても外国人の声もしっかり聞いてやっていくという課題もあると思う。

では、最後の議事として、第2期南丹市地域創生戦略の骨子について説明いただきたい。

(事務局から)

■第2期 南丹市地域創生戦略の枠組み(骨子)資料説明

委員：

骨子をお示しいただいた創生戦略について次回、中間案が出てきてその後、パブリックコメントにかけていく流れ。となると、中間案を作るのに、もっと皆さんから意見をいただけたらありがたいと思うので、方法を考えてみたい。今日は長時間出でいただいて、色々思われたことが薄れない間にもう一つアイデアをいただける機会を設けられたと思う。第2回会議で中間案を見てパブリックコメントかけている間にも私たち自身も意見を考えて第3回会議で発言するという形も考えられるが、なるべく最初の段階で基本目標を達成していくために、どのようなことをしたらいいのかというアイデアを是非いただきたいと思う。

私自身思うのは地方創生で次の課題になっていくことというのは、人の流れを作って南丹に新しくきていただいた方、将来を担う世代(小中高生)がこの町を舞台に活躍したいという主体性を持ってもらい、活躍の場も与えられる、経験を積む場を設けていくのが課題だと思う。外から来た日本人・外国人の次世代の若者で地域に残り頑張ろうという子たちに「自分たちが主役になる」という気になってもらい活躍・成果を挙げられる場を作るのがポイントだと思っている。

制度全体として、第1期の反省として、思い切ってスピーディーに作ったのは良かったが、柔軟性がなかったので、途中から色々な声を聞いても、あまり修正が出来なかった。次はもう少し柔軟に新しいアイデアを聞く場面があってもいいと思うところ。

今日は色々ご意見いただいた。一番大きい事案としては、次回中間案が出てくる。そこで今後5年間の方向性が決まってくる。人口ビジョンを伺い、それをベースに次の5年でやるべき事を議論していく機会になる。私としては第2回に至るまでに、各委員からもう1回、お持ちの情報・ご意見を何かの形で伺えればと思う。年内に戦略の骨子を固めていくことになる。

本日は第1回で長時間にもかかわらず、最初から非常に活発なご意見をいただけて良かったと思っている。次回以降もこのような形で進めて行けたらと思っているので、ご協力をお願いします。

ここで私の担当議事は終了するので、事務局にお戻ししたい。

6. その他（事務局）

- ・ **次回日程調整**：次回開催は令和元年10月11日(金)に決定

7. 閉会（事務局）